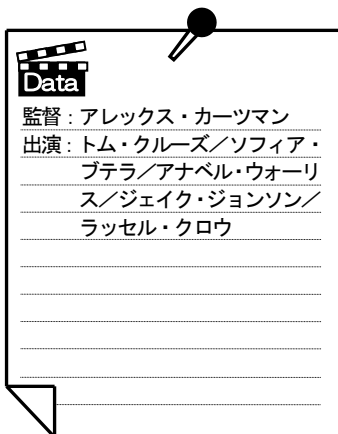




■ショートコメント■

◆古代エジプトの王位継承をめぐる権力闘争に敗れ、生きたままミイラにされた王女アマネット（ソフィア・ブテラ）を埋葬した巨大な棺を、5000年後の今、中東の戦国地帯で発見！折りしも、ロンドンの地下では、考古学上の世紀の大発見も！

発見したのは米軍関係者のニック・モートン（トム・クルーズ）と友人のクリス・ヴェイル（ジェイク・ジョンソン）だが、そこに考古学者の美女ジェニー・ハルジー（アナベル・ウォーリス）が絡み、ミステリー的要素と学術的要素を絡ませながらストーリーが進展していく。ジェニーは知的で聡明だから、ニックとの間で当初ちょっとしたズレが生じるものの、次第に恋人関係に。他方、アマネットの方は「呪われた砂漠の王女」だけに、クレオパトラのような美女なのだが、特殊メイクを含めてちょっと損な役・・・？

◆1度は『ハムナプトラ 失われた砂漠の都』（99年）シリーズの第4作とも報じられた本作だったが、それは「フェイクニュース」だったらしい。本作は、1932年のホラー映画『ミイラ再生』を新たに生まれ変わらせたもので、ひょっとすればトム・クルーズの新たなシリーズになるかもしれないそうだが、私の目にはそれはちょっと・・・？

◆つい2、3日前にトム・クルーズが撮影中のアクション映画で怪我をしたとのニュースが流れたが、本作でも彼が見せるアクションはなかなかのもの。ニックは、飛行機の墜落事故にも耐えて生き返り、アマネットから「私の男」と見込まれるが、モンスターと化したアマネットを退治する役もニックしかいない。

他方、本作中盤からはジェニーの上司である考古学者ヘンリー・ジギル博士（ラッセル・クロウ）が登場する中でジェニーの真の身分も明かされるが、やはりニックにとってはアマネットよりジェニーの方がいいのらしい。したがって、アマネットからやられてもニッ

クはやり返し、またアマネットから再三迫られてもそれをはねのけて、ジェニーの元へ。
しかして、ニックを巡る2人の女の確執を含めて、アマネットの真の復活はあるの・・・？

◆本作は大ヒットメーカーの最強タッグによるものらしい。チラシには、つぎのように紹介されている。すなわち、

『トランスフォーマー』『スタートレック』『ミッション:インポッシブル』シリーズなど、数多くの脚本・プロデュースを手掛けてきたアレックス・カーツマンが監督を務め、『ワイルド・スピード』シリーズを大ヒットに導いてきたクリス・モーガンがプロデューサーを担当。二人の大ヒットメーカーの手によって、ユニバーサル・スタジオが誇る“モンスター”に新たな命が吹き込まれる。

さらに、主演のトム・クルーズ1人だけでも十分なネームバリューなのに、さらにラッセル・クロウも共演しているから、スター性は十分。しかし、8月4日付日経新聞の映画評論家、渡辺祥子氏の評論には「莫大な製作費を投じてスケールを広げ、新シリーズの出発点にふさわしい大作に仕立てても、本来が安手の作りのB級ホラーだからA級の風格がないのがご愛嬌」と書かれており、まさにそのとおり。そこでは続いて「トム・クルーズがかつてない内なる悪と善との戦いに苦悶、最後の新境地開拓の成果をさりげなく見せて続編での登場を予告する」としめくくられているが、私の見解では本シリーズの続編は諦めて、別の企画を練った方がよいのでは・・・？

2017（平成29）年8月21日記